

子どもにはたらきかける教室環境づくりについての研究

井上正弘

はじめに

学習指導要領の底流には、児童生徒が一人の人間として、個性を發揮しながら、心豊かに主体的に生きていくために必要な資質や能力を身につけさせたいという願いが込められている。

このような能力は、学校・家庭・地域社会の中で育成されるものであるが、学校においては、学級の経営が中心的な役割を果たすものとする。学級経営においては、子ども一人一人の成長過程を見守り、それぞれのよさや可能性を引き出し育てることが大切である。その意味でも、教室を、子どもの生活の場としてふさわしい環境や主体的な学習活動を可能にする環境にすることが求められる。しかし、多くの教師は、教室環境が子どもに与える影響は大きいと感じていても、年間を見通した環境づくりや今日的な教育課題に対応する環境の在り方を明確にしていけないように思われる。

本研究は、調査をとおして教室環境づくりの現状を把握するとともに、下記の研究仮説を基にして、子どもにはたらきかける教室環境づくりの基本構想と具体的な取組の視点を明らかにし、学級経営の充実に役立てようとするものである。

研究仮説

子どもにはたらきかける教室環境は、よさや可能性を認め伸ばすことを重視した環境を子どもとともに創っていくことにより可能となるであろう

1 教室環境

(1) 教室

教室は、学校施設の基本単位である。学級単位の一斉教授を基本とする我が国においては、普通教室には子どもたちの学習活動の大部分がそこで行えるような設備や教具が用意されている。

昭和50年代に入って学習の個別化、個性化が重視さ

れ、文部省の「教育方法等の多様化に対応する学校施設の在り方について(昭和63年3月報告)」「小学校施設整備指針(平成4年3月通知)」等を受け、オープンスペースや多目的スペース等が導入されるようになり、自由に間切りができる空間や、多様な活動ができる空間を内部に持つ学校が建築されはじめた。

教室が、いつも閉ざされた融通の利かないカプセル的な空間から、教育内容・方法の多様化、情報化、子どもの行動形態等に対応して、大きく変化しつつある。

(2) 望ましい教室環境

① 教室環境

教室環境の概念は明確に定義されていないが、教室外の環境と教室内部の環境の二つの意味に解釈でき、一般には、教室内部の環境の意味に限定して用いられることが多いようである。

また、教室環境の構成要因には、人的要因と物的要因があるが、教室環境の意味は「教室内部の物的環境」に限定して用いられるのが一般的になっている。このように、教室環境は学級経営にとって、重要な物的条件であるといえる。

② 教室環境づくり

これからの学校教育においては、自ら学ぶ力を育てる教育の推進を図るとともに、生涯にわたって学び続けるための基礎を培う場としてふさわしい環境を整えることが大切である。

つまり、教室は美しく整理整頓されていればよいというだけのものではなく、子どもたちが生き生きと学習や生活を行うことのできる場なくてはならない。

2 教室環境づくりについての調査研究

(1) 調査の概要

① 調査の対象：当所における平成7年度の一般研修講座受講者である小学校の教員(学級担任) 510名

② 調査期間：平成7年7月～10月

③ 調査方法：質問紙法（参考資料）

④ 調査内容

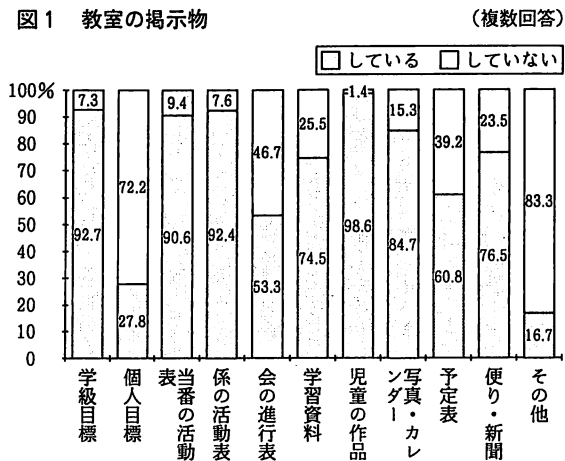
- ア 教室掲示物、備品等の内容
- イ 教室掲示物、備品等に対する子どもの意識
- ウ 教室環境づくりの現状
- エ 新しい学力観と教室環境づくり

(2) 結果の分析と考察

① 教室の掲示物

ア 掲示物の内容

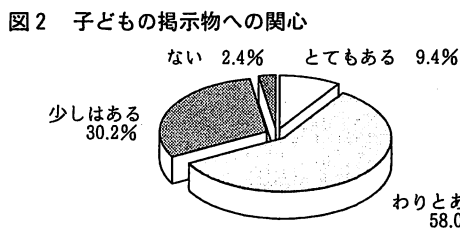
図1は、教室の掲示物についてたずねた結果である。



「児童の作品」「学級目標」「係の活動表」「当番の活動表」は、ほとんどの学級に掲示されている。「個人目標」の掲示は27.8%であり、低率である。

イ 掲示物への関心

図2は、子どもの掲示物への関心についてたずねた結果である。

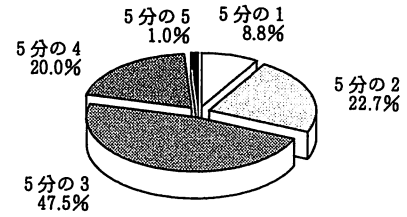


「とてもある」「わりとある」「少しはある」を合わせると97.6%になる。ほとんどの担任は、学級の子どもたちが掲示物に対して関心があると感じている。

ウ 子どもによって作られた掲示物

図3は、掲示物の中で、子どもが作った物の割合についてたずねた結果である。

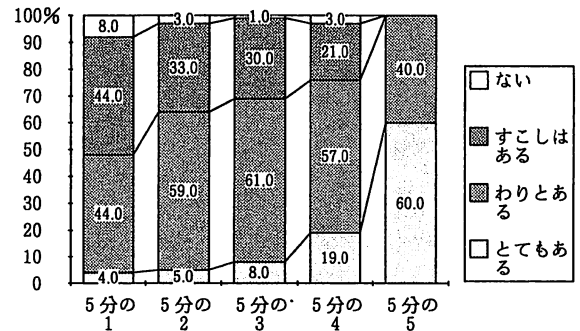
図3 子どもが作った掲示物の割合



子どもの作品等の全掲示物に対する割合は「5分の3」が一番多く、47.5%と高い数値を示している。「5分の3」以上の割合を合わせると68.5%となり、掲示物の多くは子どもたちの作品で占められている。

図4は、「子どもが作った掲示物の割合」と「子どもの掲示物全体に対する関心」とをクロスした結果である。

図4 子どもが作った掲示物の割合と掲示物全体に対する関心



これによると、掲示物全体に対する関心が「とてもある」は、子どもが作った掲示物の割合が「5分の1」の場合で4.0%、「5分の5」の場合で60.0%になっている。子どもの掲示物全体への関心は、子ども自身が作成した掲示物の割合が高いほど増している。

エ 教師の掲示の取組

表1は、作品等を掲示する際、担任が重視すべき5項目について、取組の程度をたずねた結果である。

表1 掲示の実際

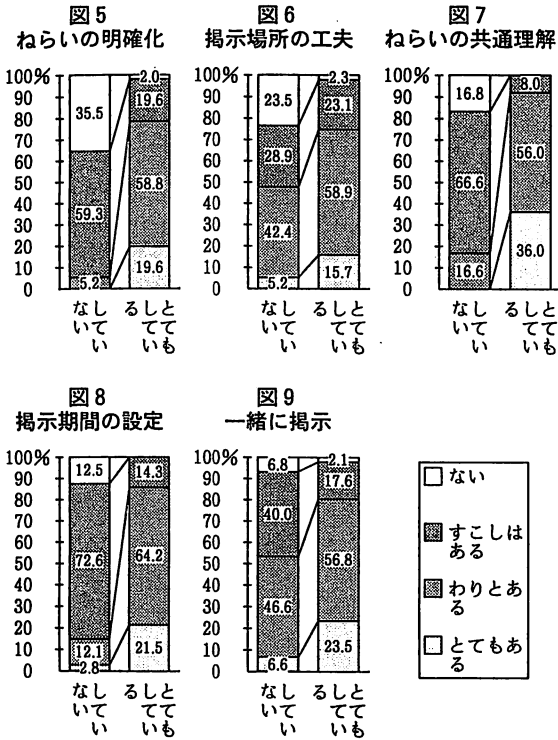
	掲示のねらいの明確化	掲示のねらいの共通理解	掲示場所の工夫	一緒に掲示する	掲示期間の設定
とてもしている	5.2%	4.9%	18.6%	10.0%	5.3%
わりとしている	41.1%	30.4%	55.7%	45.3%	33.3%
少しはしている	45.5%	43.3%	23.5%	27.6%	37.6%
あまりしていない	7.6%	19.0%	1.8%	14.1%	21.4%
していない	0.6%	2.4%	0.4%	3.0%	2.4%

「とてもしている」「わりとしている」「少しはしている」を合わせると、「掲示場所の工夫」が97.8%と最も多く、「掲示のねらいの明確化（91.8%）」「一緒に

に掲示する (82.9%)」が続いている。

しかし、「とてもしている」「わりとしている」の両者でみると、「掲示のねらいの明確化」が46.3%、「掲示のねらいの共通理解」が35.3%、「掲示期間の設定」が38.6%であり、ねらいと計画は十分でないといえる。

図5から図9は、上述した「5項目に対する教師の重視の有無」と「掲示物への子どもの関心」とをクロスした結果である。



各図のグラフ間において、子どもの興味が「とてもある」に注目すると、両者の差は「ねらいの共通理解 (36.0%)」「ねらいの明確化 (19.6%)」「掲示期間の設定 (18.7%)」「一緒に掲示 (16.9%)」「掲示場所の工夫 (0.5%)」の順となる。

この結果は、子どもの興味の高さが教師の各項目を重視する度合いに大きく左右されることや項目によってその程度が違うことを示している。

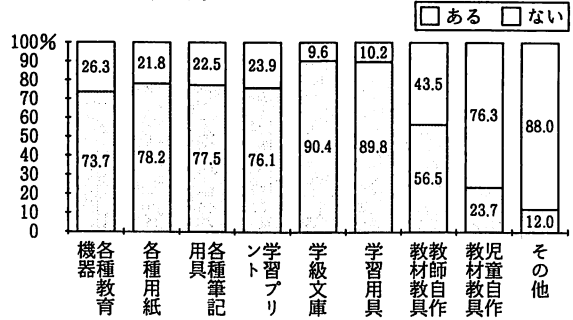
子どもの掲示物への関心の高まりは、掲示物のねらいを明確にし、掲示期間の設定を計画的に進めることに大きく影響されているといえる。

② 教室の備品等

ア 備品等の内容

図10は、教室に置いてある備品等についてたずねた結果である。

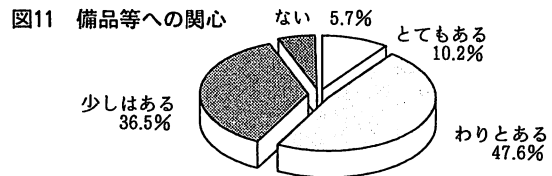
図10 学級の備品等 (複数回答)



「学級文庫」「学習用具」は、約90%の学級に備えてあり、「各種教育機器」「各種用紙」「各種筆記用具」「自主学习プリント」についても、70%以上の教室に備えられている。

イ 備品等への関心

図11は、子どもが教室の備品等に、どの程度関心をもっているかをたずねた結果である。



約9割の担任が、子どもたちが備品等に関心があると感じている。しかし、「少しはある」が36.5%と多く、全体的には関心が高いとはいえない。

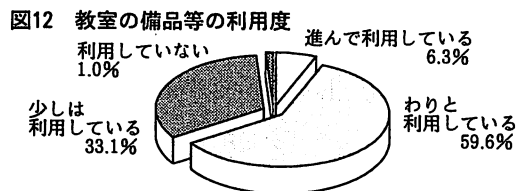
自由記述による子どもの関心の高い備品等と、その理由をまとめてみると、関心の高い備品等は学級によって異なるが、理由として挙げられた内容には、次のような共通点がみられた。

- ・生活や学習の場で自由に利用しているから
- ・子どもたちが作成した物だから
- ・利用の目的や方法がはっきりしているから
- ・継続的な指導の中で利用しているから

これらの理由のうち、利用の目的や方法の明確化、利用の自由性は、教室環境づくりを進める上で大切なポイントであると考えられる。

ウ 備品等の利用度

図12は、子どもが教室の備品等をどの程度利用しているかをたずねた結果である。



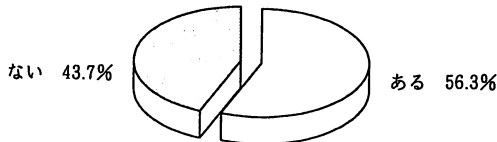
ほとんどの担任が、子どもたちが備品等を利用して
いると感じている。しかし、「少しは利用している」
が33.1%と多く、全体的には利用度が高いといがた
い。

③ 教室環境づくり

ア 学級担任独自の工夫

図13は、教室環境づくりに独自の工夫があるかどう
かをたずねた結果である。

図13 学級担任独自の工夫



学級担任の56.3%が「ある」と答えている。

表2は、「ある」と回答した担任287人に、自由記述
により工夫している内容をたずねた結果の抜粋である。

表2 独自の工夫の内容

- ・季節の草花や切り花を飾る
- ・学習の進度に合わせて学級文庫の充実
- ・既習学習のまとめの掲示
- ・掲示物の文字の大きさや形、色の工夫
- ・黒板の一部の自由利用

これらの内容は、大きく4点にまとめることができ
る。

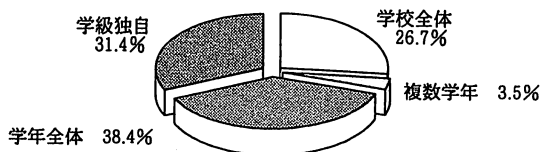
- 1 指導内容、指導方法の工夫改善を目指した環境づくりの工夫
- 2 一人一人の存在感や達成感の高まりを重視した環境づくりの工夫
- 3 子どもの自主的、実践的な活動を支援した環境づくりの工夫
- 4 教室が心のやすらぐ場となる環境づくりの工夫

担任は、子どもが生き生きと生活したり学習したり
できる環境を目指して、様々な工夫を行っている。

イ 教室環境づくりの共通理解

図14は、教室環境づくりについて学校、学年等で共
通理解を図っているかどうかをたずねた結果である。

図14 教室環境づくりの共通理解



これによると、「学年全体」が38.4%と最も多く、
「学級独自 (31.4%)」「学校全体 (26.7%)」「複数学
年 (3.5%)」が続いている。

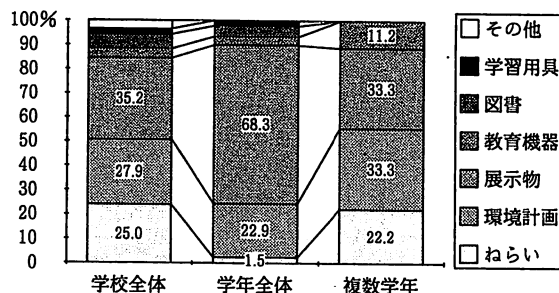
教室環境づくりについて、約7割の学級が他の学級、

学年と共通理解を図っていることが分かる。

図15は、「学校全体」「学年全体」「複数学年」で共
通理解していると答えた担任350人に、特に共通理解を
図っている内容をたずねた結果である。

図15 共通理解を図っている内容

(N350)

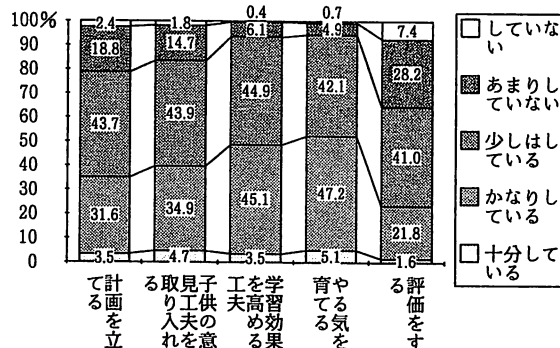


3者ともに一番高い割合を示しているのは、「掲示
物」である。「ねらい」「環境計画」の2項目を合わせ
た割合を比較してみると、「学校全体」では52.9%、
「複数学年」では55.5%であり、共通理解の場として
約4割の回答がみられた「学年全体」では、24.4%と
なっている。これらの結果から、最も大切な「ねらい」
や「環境計画」の共通理解が十分でないといえる。

ウ 教室環境づくりの力点

図16は、教室環境づくりの力点についてたずねた結
果である。

図16 教室環境づくりの力点



各項目とも「十分している」の割合は低率である。
また、「していない」「あまりしていない」を合わせる
と、「計画を立てる」については21.2%、「評価をする」
では35.6%の割合がみられる。

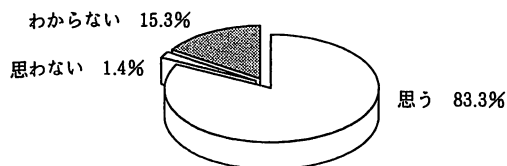
教室環境づくりの計画や評価が、十分に行われてい
るとはいえない。

④ 新しい学力観と教室環境づくり

ア 新しい学力観に基づく教室環境づくりの必要性

図17は、新しい学力観に基づく教室環境づくりの必
要性についてたずねた結果である。

図17 新しい学力観に基づく教室環境づくりの必要性

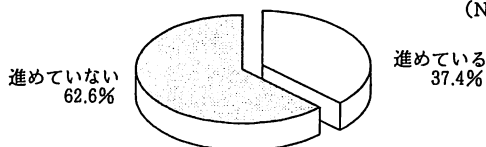


これによると、「必要だと思う」は83.3%と高い数値を示している。

イ 新しい学力観に基づく教室環境づくりの取組

図18は、「必要だと思う」と回答した担任425人に、実際に新しい学力観に基づく教室環境づくりを進めているかどうかをたずねた結果である。

図18 新しい学力観に基づく教室環境づくりの取組 (N425)



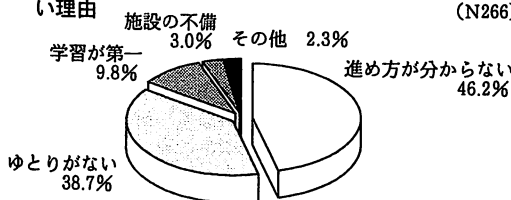
「必要だと思う」の回答が、83.3%と高い数値を示しているにもかかわらず、実際に「進めている」と答えたのは、わずか37.4%である。

「進めている」と回答した学級担任159人に、工夫している内容についてたずねた結果をまとめると、以下の5点になる。(自由記述)

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 子どもの考えや意見を大切に環境づくり |
| 2 | 子どものよさや成長が分かる掲示物と評価 |
| 3 | 主体的な学習を支援する掲示物 |
| 4 | 情報活用能力の育成をめざした備品等の設置 |
| 5 | 多様な学習方法に柔軟に対応する備品等の設置 |

図19は、必要性は感じているが「進めていない」と回答した担任266人に、その理由をたずねた結果である。

図19 新しい学力観に基づく教室環境づくりを進めていない理由 (N266)

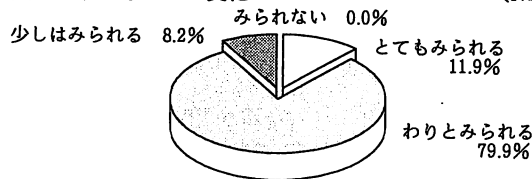


これによると、「進め方が分からない」が46.2%と約5割に上っている。このことは、「新しい学力観に基づく教室環境づくり」のねらいの設定や計画ができていないことによると考えられる。

ウ 子どもの変化

図20は、「進めている」と答えた担任159人に、子どもの変化についてたずねた結果である。

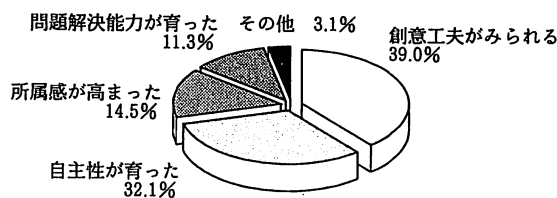
図20 子どもたちの変化 (N159)



「進めている」と回答した全ての担任が、子どもに変化がみられると感じている。

図21は、特に変わってきたと思う様子についてたずねた結果である。

図21 子どもたちの変化の様子



「創意工夫がみられる」が39.0%と一番多く、「自主性が育った(32.1%)」「所属感が高まった(14.5%)」が続いている。担任が感じているこれらの変化をみると、教室環境が、新しい学力観に基づく教育を進める上で、大切な役割を果たしているといえる。

3 子どもにはたらきかける教室環境づくり

分析・考察を通し、教室環境づくりの明確なねらいと見通しのある計画を立てることの大切さが明らかとなった。これらをふまえ、子どもにはたらきかける教室環境づくりについて述べたい。

(1) 「基本構想図」と「月別教室環境計画」の作成

「子どもにはたらきかける教室環境づくり」を進める時、子どもの作品等を、壁面に余裕があるから掲示するとか新しい作品ができたから展示するといった、計画性のない教室環境づくりを進めることは、教育的配慮に欠け、かえって逆効果になってしまうことがある。教師は、何をねらいとして掲示や展示をしたり、備品等を教室に用意したりするのかを明確にする必要がある。その意味で、教室環境は、担任の学級経営に対する構えを端的に示すものであると考える。

図22は、新しい学力観に基づく教室環境づくりに焦点を当て作成した「学級経営の充実を図るための基本構想図」である。また、この基本構想図に基づき、その具現化を図るために作成したのが、表3の「学級経営の充実を目指した教室環境計画(試案)」である。

図22

学級経営の充実を図るための基本構想図
 —子どもにはたらきかける教室環境—

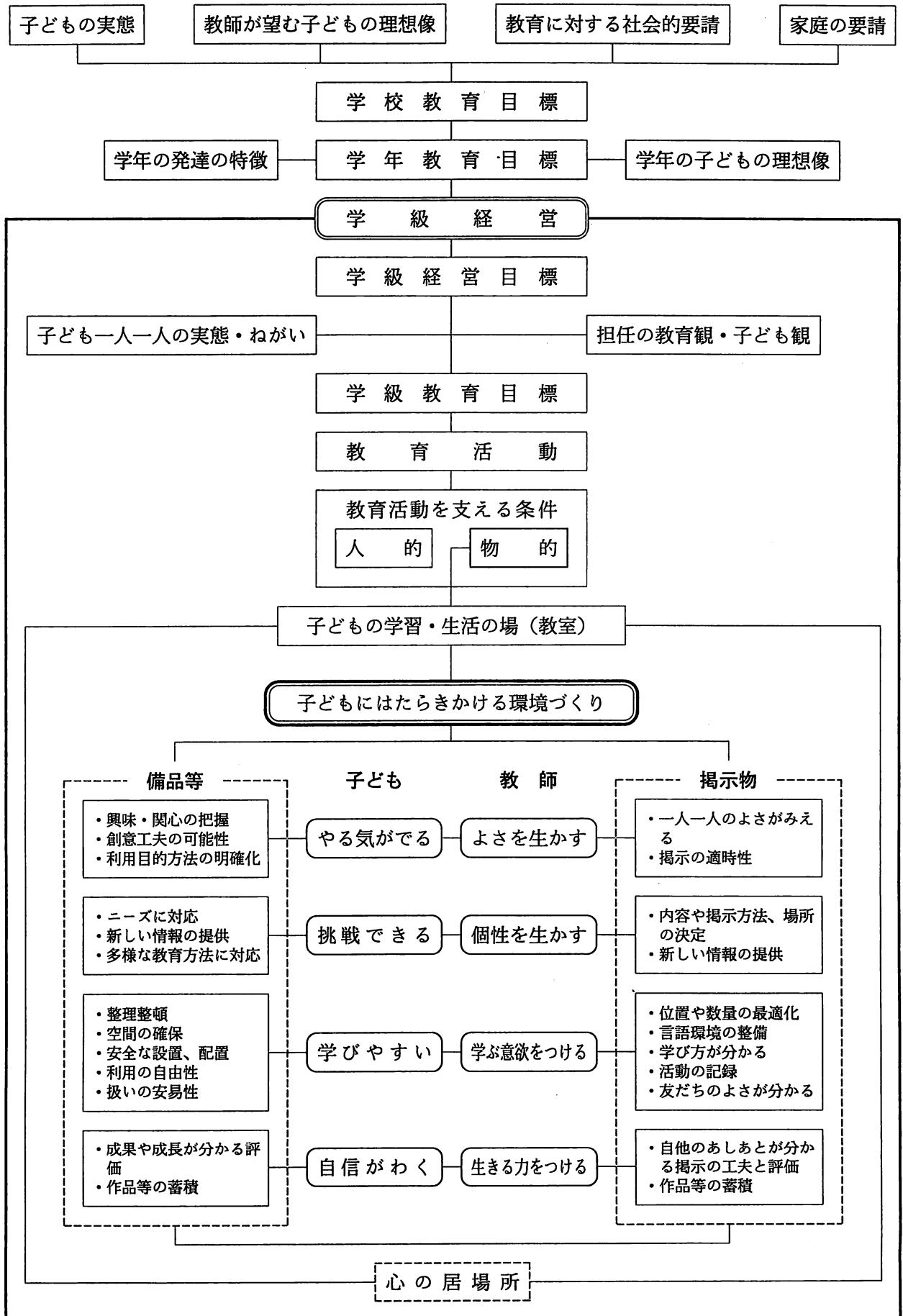


表3

学級経営の充実を目指した教室環境計画(試案)

月	教室環境の目標	具体的な視点		教室環境が果たす主な役割		重点
		掲示物	備品等	生活面	学習面	
4	新学年の教室環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期を祝いやる気を喚起 ・子どもと掲示物の役割、種類等についての共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性の確認 ・機能性の吟味 ・設置、配置場所の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れる ・新たな目標を目指す意欲づくり ・生活環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の学習意欲を高める ・新たな目標を目指す意欲づくり ・学習環境の整備 	お互いのよさを知る
5	子どもの積極的な活動を支援する環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な学級活動の支援 ・よさや頑張りを認める自己評価、相互評価の導入 ・ねらいに合った場所、方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用方法の明確化 ・子どもの興味・関心の把握 ・必要性の吟味 ・学習用具の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり ・学級生活の充実と向上を目指した積極的な学級活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の学習意欲を高める ・一人一人のよさや頑張りを認める ・新しい生活、学習情報の提供 	
6	落ち着きのある生活を目指した環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・数量、内容の検討 ・望ましい生活や学習態度の育成を支援 ・言語環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材教具の充実 ・破損、不備等の点検 ・整理整頓、衛生美化 ・活動しやすい空間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に落ち着きやうるおいのある環境 ・生活のルールづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びやすい環境 ・学習のルールづくり ・個に応じた指導の充実 	
7	1学期の教室環境の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の目標の達成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の目標の達成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の生活のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習のまとめ 	
9	2学期の教室環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの頑張りを認める ・掲示計画に子どもの考えや意見の積極的な導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの頑張りを認める効果的な展示の工夫 ・効果的な利用の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの生活をふりかえる ・2学期の生活目標の明確化とやる気を喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの学習をふりかえる ・2学期の学習目標の明確化とやる気を喚起 	
10	子どもの主体的な活動を支援する教室環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体的な掲示活動の奨励 ・日々の生活や学習活動がみえる掲示場所、方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習方法に対応できる内容、種類の充実 ・機能性の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性の尊重 ・学級活動の充実 ・集団活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習の支援と評価 ・学習形態の工夫 ・教材教具の充実 	
11	子どもの創意工夫を生かした教室環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に活用できる場所の拡大 ・作成活動の場と工夫できる時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものねがいや発想を大切に利用方法や内容の工夫改善 ・利用の自由性の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のアイデアを生かす ・認め励まし合う人間関係の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な学習の方法・内容の理解と態度の育成 ・主体的な学習の支援 ・教材教具の充実 	
12	2学期の教室環境の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の目標の達成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の目標の達成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の生活のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の学習のまとめ 	
1	3学期の教室環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の効果的な掲示 ・新年のやる気を高める工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の効果的な展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの生活をふりかえる ・新年のやる気を高める ・3学期の目標の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの学習をふりかえる ・新年のやる気を高める ・3学期の目標の明確化 	
2	子どもの成長の変化が分かる教室環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から蓄積した作品等の有効活用 ・お互いの成長が分かる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から蓄積した作品等の有効利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の目標達成を支援 ・共感的な子ども理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの成長を認め合う 	
3	1年間の教室環境の整備の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度 ・子どもの日々の活動のよさがみられ、常に新鮮であったか 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度 ・子どもが生活しやすく学びやすかったか 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の生活のまとめ ・お互いの成長を認め合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の学習のまとめ ・お互いの頑張りを認め合う 	
子どもと一緒に創り上げた環境の評価						お互いの成長に気付く

見通しのある環境計画を立てることは、「子どもと担任がともに活動した結果が環境を創り、その環境が、さらに子どもにはたらきかけて新しい活動を生む」という、生き生きとした学級づくりにつながると思う。

担任は、日々行われる掲示の活動を、基本的には子どもの主体的な活動の現れとして捉えるべきであり、備品等についても、子どもの興味・関心や必要性に応じた内容、利用方法等の工夫を行うことが大切である。

掲示物や備品等の役割には、

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 生活や学習のねらいを明らかにする。 |
| 2 | 活動方法や内容を明らかにする。 |
| 3 | 生活や学習に役立つ。 |
| 4 | 生活や学習に落ち着きを与える。 |
| 5 | さまざまな情報を提供する。 |
| 6 | 一人一人のよさが分かる。 |
| 7 | 一人一人の成長が分かる。 |

などが考えられる。こうした役割の違いによって、内容や方法に変化がみられなければならない。

(2) 学級活動の充実

子どもが中心となって教室環境を創っていく活動は、学級活動の充実にもつながる。

図23の「提案しますカード」は、自主的、自発的な系の活動をねらって作成したものである。こうしたカードを利用し、教室環境についての子もたちの積極的な意見や考えを大切にすることにより、みんなで教室環境を創ろうとする意欲が高揚する。こうして創られる環境は子どもにとって快適な環境となり、この環境が子どものやる気を高め、さらに活発な学級活動を実現するものとする。

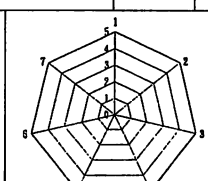
図23 提案しますカード

平成 年 月 日 () 氏名 ()			
	大変身	少しだけ変身	その他
掲示物			
置いてある物			
その他			
() さんへ			
あなたの提案は	・先生と相談してみることに決まりました		
	・学級会の議題として係から提案することに決まりました		
そこで、月 日 () に、あなたの意見をくわしく聞かせて下さい。よろしくおねがいします。 月 日 掲示係より			

(3) 学級経営の評価

図24は、学期の終わりに学級経営の在り方を診断し、結果を次の学期に生かすために作成した「学級経営診断カード」である。一人一人を生かす学級経営の視点に立ち、教室環境についても診断項目として挙げた。

図24 学級経営診断カード

		1-全く 2-あまり 3-少しは 4-かなり 5-十分			
観	診 断 項 目			評価点	平均
1 経営 状況	1	経営案(計画案)が生かされたか		1-2-3-4-5	
	2	情性に陥ることなく進めることができたか		1-2-3-4-5	
	3	方針・計画を明確にして進めていたか		1-2-3-4-5	
	4	学校・学年・学級の指導方針が一貫していたか		1-2-3-4-5	
2 学習 指導	1	ねらいを明確にして授業にのぞんだか		1-2-3-4-5	
	2	子ども達の頑張りを認め、励ますことができたか		1-2-3-4-5	
	3	子ども達の興味や関心を大切にされたか		1-2-3-4-5	
	4	助け合ったり、認め合ったりする場や機会があったか		1-2-3-4-5	
3 生徒 指導	1	一人一人の願いや悩みを的確に把握しようとしたか		1-2-3-4-5	
	2	学級のきまりは、子ども達にとって適切であったか		1-2-3-4-5	
	3	方針・内容について家庭の理解と協力が得られたか		1-2-3-4-5	
	4	しかるることよりほめることを大切にされたか		1-2-3-4-5	
4 環境 整備	1	気持ちよく生活できる環境づくりを進めたか		1-2-3-4-5	
	2	安全に生活できる環境づくりを進めたか		1-2-3-4-5	
	3	ねらいをもって計画的に進めたか		1-2-3-4-5	
	4	教育効果を高める環境であったか		1-2-3-4-5	
5 学級 集団	1	子ども達と共に喜びをわかちあうことができたか		1-2-3-4-5	
	2	集団の中で一人一人の子どもを生かすことができたか		1-2-3-4-5	
	3	仲が良くまとまりのある学級づくりを進めたか		1-2-3-4-5	
	4	子ども達は自分達の学級を楽しい学級と思っていたか		1-2-3-4-5	
6 事務	1	計画的に処理することができたか		1-2-3-4-5	
	2	正確に処理することができたか		1-2-3-4-5	
7 その他	1	経営に独自のアイデアを取り入れたか		1-2-3-4-5	
	2	他学級、他学年とのコミュニケーションを図ったか		1-2-3-4-5	
	3	保護者との連携を図ったか		1-2-3-4-5	
来学期に向けて					

また、図25は、子ども自身が次の学期への意欲を持つことを目的として作成した、高学年用の「ふりかえり(自己評価)カード」である。この中にも、教室環境について自己評価を行う内容を盛り込んだ。

図25 ふりかえりカード

個人目標	学	習	生	活	教	室	友	だ	ち	() 学期 ふりかえりカード 氏名 ()				
先生や友だちのおうえんがありましたか	目標に向かってがんばる気持ちがありましたか	自分から進んで学びましたか	友だちと助け合ったり励まし合ったりしましたか	自分の役割を最後まで果たそうとしましたか	先生や友だちに助けられたりほめられたりすることがありましたか	学級のきまりを守ろうとしましたか	学級のやる気を出して頑張りましたか	学級の掲示物や置いてあるものに興味がありましたか	あなたいそおかない物がなく安全に生活できる教室でしたか	気持ちよく生活できる教室でしたか	仲のよい学級でしたか	自分たちのよいところを見つけてきましたか	自分かを誇って嬉しく感じたり一緒に楽しんだりしましたか	楽しい思い出がありますか
特に頑張ったと					先生より									

「学級経営診断カード（教師用）」と「ふりかえりカード（子ども用）」は、それぞれの項目をできるだけ同じ内容にすることにした。これは、担任と子どもの評価の違いを分かりやすくし、経営の方針や内容の修正の方向性が明確になることをねらいとしたためである。

(4) 新しい教室環境

県下の公立小学校の約30%（平成6年度）が、教育内容・方法の多様化、情報化に対応した多目的スペースやオープンスペース等を導入している。活動空間の拡大と教室と廊下の間切りを取り払ったことは、子どもたちの生活に変化を与えるとともに、教育方法においても多様な実践を可能とするものである。

「オープンスペース」についての自由記述をみると、以下のような様々な工夫が図られている。

- 学級の活動を学校や学年全体に知らせるコーナーを設置する。
- 学習コーナー、学習センターを設置する。
- 個別学習の場を確保する。
- 教室に掲示するものとオープンスペースに掲示するものを区別して掲示する。
- 学習に必要な教材・教具を常に用意して、必要な時すぐに利用できるようにする。
- 多様な学習形態に対応できるテーブルや椅子を用意する
- 子どもの自主的な活動ができる空間を確保する。

見学した2校でも、学校建築の設計段階から、機能性に富み、子どもの生活や学習に最適な環境づくりを進めている。

教室と同じ大きさのワークスペースを設け、子どもの主体的な活動や多様な学習形態に対応できる空間がある。そこには、自由に利用できる備品等が設置され、子どもたちが楽しそうにコンピュータを操作する姿がみられた。また、教室とワークスペースを有効に活用して、学習の質的充実が図られており、個に応じた学習を進めているあしあとがゆったりとしたスペースの中に残されていた。ハード面とソフト面が上手にかみ合わさっており、この空間は、子どもや教師にとって心のやすらぐ「憩いの場」ともなっている。

今後、このような学校施設が増えていくことが予想されるが、現状では、今の施設環境を有効に利用しながら、将来に向けての長期的な視点に立った整備計画を進めていくことが必要である。一つの教室を中心に、廊下等に学習コーナーを設置したり、余裕教室の活用を図ったりしながら、生活や学習にふさわしい環境構成を整え、多様な活動に対応できる環境の工夫が求め

られる。

将来、学校施設は大きく変化し、教室も今のイメージから想像がつかないくらい変わっていくかもしれない。しかし、人間が環境をつくり、環境が人間をつくっていくと考えると、教師は子どもの実態を的確に把握し、子どものよさを見取る目・心・技を磨いていくことが大切である。そして、日々の頑張りを励ましていくことを基本姿勢に、子どもにとって最適な環境づくりを目指すことが望まれる。

おわりに

学級経営の充実を求めて、教室環境づくりの現状をみながら、教室環境づくりの計画・実践・評価の在り方を論じてみた。

子どもにはたらきかける教室環境とは、子どもの成長のあしあとが分かり、日々創られる環境が一人一人の子どものやる気や喜びにつながり、良い刺激となって次へのエネルギーが湧いてくる環境である。その時、子ども一人一人がかけがえのない存在として大切にされ、子ども同士及び教師と子どもの中に心の通い合う人間関係が育ち人的環境が整うと、物的環境である教室環境はより強く子どもたちにはたらきかけていくものとする。

課題となったねらいの不明確さや計画の不十分さを解決する一つの方策として、「基本構想図」や月別の「教室環境計画（試案）」の作成を試みた。十分なものではないが、学級の「教室環境づくり」の充実につながれば幸いである。

最後に、研究に対して、ご協力いただいた多くの先生方に深く感謝し、お礼申し上げます。

参考文献

- 文部省『教育方法の基礎（小学校版）』1991
- 文部省『小学校教育課程一般 指導資料』1993
- 文部省『小学校施設整備指針』文部省大臣官房文教施設部 1992
- 「産業と教育の社会史」編集委員会編集『生活の時間・空間 学校の時間・空間』新評論 1984
- 吉本二郎他編『学校教育のしくみと働き』第一法規 1988
- 高階玲治著『学ぶ力を育てる』東洋館出版 1994

協力校

- ・西宮市立東山台小学校
- ・但東町立合橋小学校

(注)

分析には、統計データ処理のプログラムパッケージ
SPSS-PCを用いた。

参考資料

小学校における学級経営についての調査

新しい学力観に立つ学校教育において、豊かな心と自ら学ぶ力を育成することが求められ、学級経営はこの課題を果たす上で重要な役割を担っています。
そこで、望ましい学級経営の在り方について考察するために、学級での環境づくりの現状についてアンケートを実施します。調査にご協力下さい。回答は、該当する記号に○をつけて下さい。

- 問1 性別
ア男 イ女
- 問2 教職経験
ア3年未満 イ3～10年 ウ11年～20年 エ21年～30年 オ31年以上
- 問3 担当学年
ア1年 イ2年 ウ3年 エ4年 オ5年 カ6年
- 問4 教室には、どんなものが掲示されていますか。(複数回答可)
ア学級目標 イ個人目標 ウ当番活動表 エ係活動 オ会の進行表 カ学習資料 キ児童の作品(習字、図工等) ク写真・カレンダー ケ予定表 コ便り・新聞 サその他()
- 問5 子どもたちは、教室の掲示物に関心がありますか。
アとてもある イわりとある ウ少しはある エない
- 問6 教室の掲示物の中で、子どもによって作られた掲示物の割合はどれくらいですか。
ア5分の1 イ5分の2 ウ5分の3 エ5分の4 オ5分の5
- 問7 教室には、どんな備品等が置いてありますか。(複数回答可)
ア各種教育機器 イ各種筆記用具 ウ各種用紙 エ学習プリント オ学級文庫(図書) カ学習用具(コンパス、三角定規等) キ教師自作教材教具 ク児童自作教材教具 ケその他()
- 問8 子どもたちは、教室の中の備品等に関心がありますか。
アとてもある イわりとある ウ少しはある エない
1) ア、イと答えた方は、子どもたちが関心をもっている物を具体的に1つあげるとともに、考えられる理由を書いて下さい。
- | | | | |
|---|--|----|--|
| 物 | | 理由 | |
|---|--|----|--|
- 問9 教室の中の備品等を、子どもたちはどの程度利用していますか。
ア進んで利用している イわりと利用している ウ少しは利用している エ利用していない
- 問10 教室環境づくりの中に、学級担任独自の工夫がありますか。
アある イない

あると答えた人は、工夫していることを具体的に1つ書いて下さい。

- 問11 教室環境づくりについて、学校、学年等で共通理解していますか。
ア学校全体 イ学年 ウ複数学年 エ学級独自
1) ア、イ、ウと答えた人は、特に共通理解を図っている内容を下記から1つ選んで下さい。
アねらい イ環境計画 ウ掲示物 エ教育機器 オ図書 カ学習用具 キその他()
- 問12 教室環境づくりを進める上で、次のことをどの程度していますか。
十分 かなり 少しは あまり していない
- ア計画を立てる

--	--	--	--	--
- イ意見工夫を取り入れる

--	--	--	--	--
- ウ学習効果を高める工夫

--	--	--	--	--
- エやる気を育てる

--	--	--	--	--
- オ評価をする

--	--	--	--	--
- 問13 掲示物を掲示するとき、次のことをどの程度行っていますか。
とても わりと 少しは あまり していない
している は ない
- ア掲示のねらいの明確化

--	--	--	--	--
- イ掲示のねらいの共通理解

--	--	--	--	--
- ウ掲示場所の工夫

--	--	--	--	--
- エ一緒に掲示する

--	--	--	--	--
- オ掲示期間の設定

--	--	--	--	--
- 問14 新しい学力観に基づく教室環境づくりは必要だと思いますか。
ア思う イ思わない ウ分からない
1) アと答えた人は、新しい学力観に基づく環境づくりを進めていますか。
ア進めている イ進めていない
2) 1)でアと答えた人は、新しい学力観に基づく教室環境づくりで一番工夫していることはなんですか。
- 3) 1)でアと答えた人は、子どもの様子に変化がみられますか。
アとてもみられる イわりとみられる ウ少しはみられる エみられない
4) 3)でア、イと答えた人は、下記から特に変わってきたと思われる点を1つ選んで下さい。
ア所属感が高まった イ創意工夫がみられる ウ自主性が育った エ問題解決能力が育った オその他()
5) 1)でイと答えた人は、下記から特にその理由として挙げられる点を1つ選んで下さい。
アゆとりがない イ進め方が分からない ウ施設の不備 エ学習が第一 オその他
- 問15 あなたの学校には、オープンスペースがありますか。
アある イない
あると答えた方は、教室環境で工夫していることがあれば、具体的に書いて下さい

ご協力、ありがとうございました。